

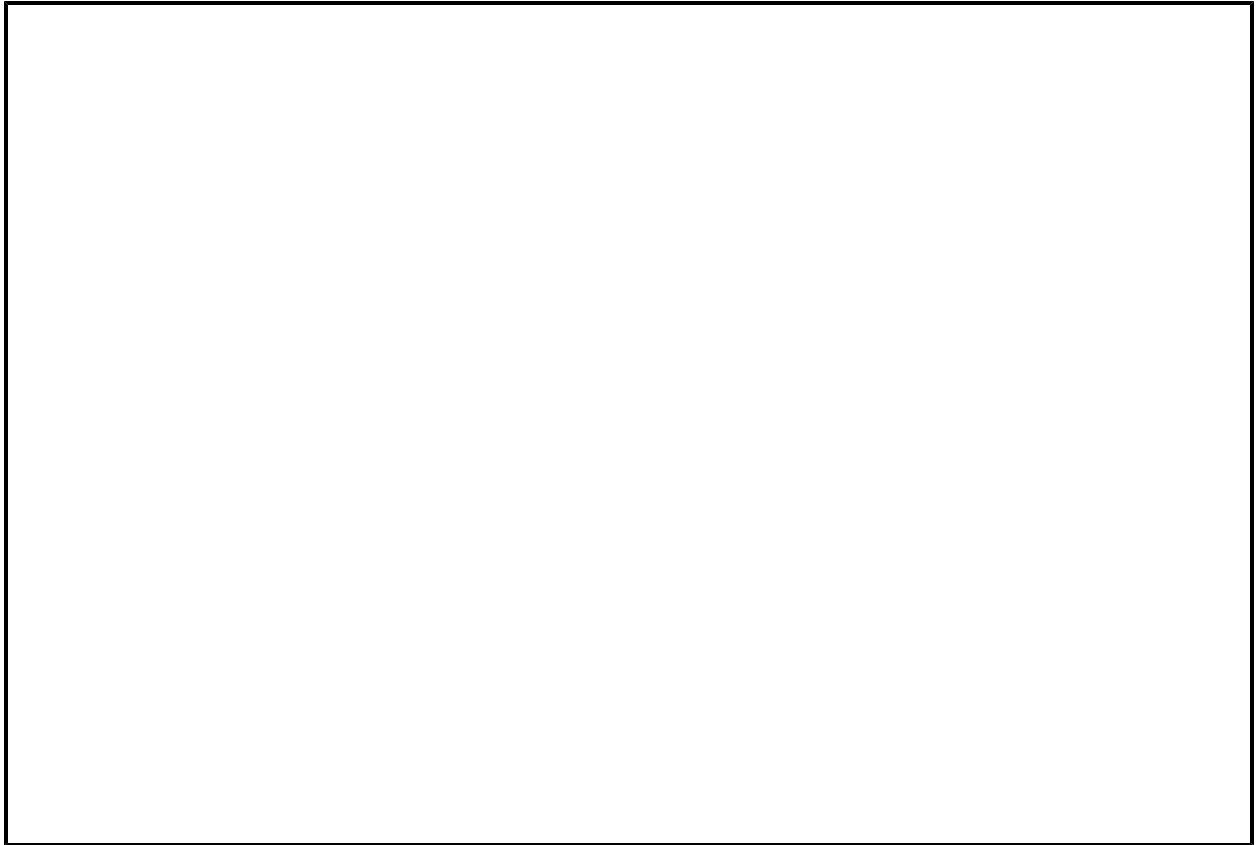
南アメリカ～～アマゾンの未来をデザインする～①

(　　)組(　　)番(　　)

【Step 1】探求(Explore)：課題の構造を理解する

1. 《つながりマップ》

教科書や資料集を使い、「日本の私たちの生活」と「アマゾンの熱帯林減少」の間に
ある関係を、キーワード（牛肉、大豆、木材、焼畑、道路建設など）を使って矢印で結んでみよう。



2. 《批判的問い合わせ》

開発を進めることで「豊かになる人」と、逆に「困る人」はそれぞれ誰だろうか？

豊かになる人：

困る人：

南アメリカ～～アマゾンの未来をデザインする～②

(　　)組(　　)番(　　)

【Step 2】想像 (Imagine)：解決策のモデル化 (AIとの対話)

1. 《あなたの初期アイデア》

「経済発展」と「環境保護」を両立させるための、あなたなりの新しいアイデアを自由に書いてみよう。

2. 《AIによる視点の拡張》

AIに「自分の案への反対意見」を出させ、自分の考えになかった視点をメモしよう。

AIが指摘した「この案の弱点」：

AIの指摘を受けて、どう修正する？：

南アメリカ～～アマゾンの未来をデザインする～③

(　　)組(　　)番(　　)

【Step 3】実行 (Create)：開発計画書を完成させる

計画タイトル：「　　」

○具体的な施策：（誰が、何を、どうするのか）

○期待される効果：

○この案の「限界」：（完璧ではない部分、まだ解決できない課題をあえて書く）

【Step 4】省察 (Reflect)：学びの評価

1. 《相互評価 (クリティーク)》

友だちの案を見て、以下の基準でコメントしよう。

○創造性：既存の知識を組み合わせて、新しい視点を生んでいるか。

○批判的思考：複数の立場を比較し、根拠が示されているか。

	創造性	批判的思考
4 卓越	経済と環境の対立を超え、他地域にも応用可能な斬新な統合案を提示している。	複数の立場（政府、NGO、住民等）の利害を精密に分析し、案の限界まで自覚している。
3 優れている	既存の知識を組み合わせ、独自の視点で説得力のある解決策を提案している。	根拠（統計や地理的条件）に基づき、論理的な一貫性を持って主張している。
2 発現	一般的な事例の枠内だが、自分なりの工夫が一部に見られる。	単一の視点（例：環境のみ）から評価しており、根拠の提示が部分的である。
1 未達	教科書の記述の模倣にとどまり、独自の提案が見られない。	主観的な感想が中心で、客観的なデータや多角的な視点が欠如している。

2. 《最終リフレクション》

他者の視点に触れ、自分の案をさらに改善するとなったら、次はどう動くべきだろうか？